

ねずみのすもう

むかしむかしあるところに、まずしいおじいさんとおばあさんがすんでいました。ふたり

のいえには、ちいさなねずみがありました。

そのねずみは、となりのおおやしきにすむ、おおきなねずみとよくすもうをとっていました

た。でも、いつもおおきなねずみになげとばされていました。

おじいさんたちは、ねずみのためにだいすきなおもちをついてあげました。

「さあ、これをたべればちからがつくぞ！」

ねずみは、おいしいおもちをたくさんたべて、げんきいっぱいになりました。そして、

おおきなねずみにまけなくなりました。

「やったー、かった！かった！」

おおきなねずみは、たずねました。

「どうやって、きゅうにつよくなったんだい？」

ちいさいねずみは、おじいさんたちがおもちをたべさせてくれたことをしょうじきにいい

ました。おおきなねずみは、いいました。

「うちはおかねもちだけど、そんなものはたべさせてもらえないよ」

それをきいていたおじいさんとおばあさんは、にひきのねずみにおもちとあかいふんどしをつくってあげました。

「ありがとう！おいしいね。」

おおきなねずみは、おれいにたくさんのこぼんをもってきてくれました。それから、にひきのねずみはすもうをなかよくとりました。おおきなねずみがもってきたこぼんのおかげでおじいさんとおばあさんも、たべるものにこまらずすえながくしあわせにくらしました。